

地図を読めない男

文 伊藤公一

text by Kouichi Ito

ラジオニュースで知った小さな話題から記す。

全国各地の道路地図「スーパーマップル」や、ガイドブックの『まっふる』などの出版を手がけ、地図出版への特化で知られる東証1部上場企業、昭文社の経営が厳しく、3年連続赤字決算となる見通しで、希望退職者の募集による80名の人員削減を決定した。

対象者は、子育てにお金がかかる世代で高賃金の45歳以上社員と聞き、より悲痛な思いを禁じ得ない。その世代の社員は、旅行好きで地図や観光ガイドの手作りを天職とし、入社したものと想像出来るからだ。

そして、その悲劇の原因は誰もが見当のつくところで、社は主力の出版事業や電子事業において、出版不況による地図出版物の不振や、スマートフォンに搭載される無料ナビアプリの普及で業績が悪化。既存事業の効率化が喫緊の課題と判断し今回の削減を決定しようだ。

そのニュースと同時期、平凡なウィークデーの夕方、僅か4時間半だが、上場直前のソフトバンクが通信障害を発生させたがために、日本列島が北から南まで大パニックに陥った。

障害の間、自身は当たり前に外来診療を行っている時間帯であり、個人的にはなんの不具合も生じなかったが、世の中は大騒動であった。

それは若者達の夕方のデートの待ち合わせに支障を来したぐらいの軽い話ではなく、宅配便や電車、飛行機の遅延にまで影響を及ぼすに至った。

確かに、現代社会において一瞬でも携帯電話やコンピュータの通信が途絶えたら深刻な事態が引き起こされるわけだが、それにしても人々は、いつの間にも、IT化に慣らされてしまったのであろうか。

そこで自身の行動を鑑みても、気が付けば電話やファックス、デスクトップパソコンからノートパソコン、そしてスマートフォンからのメールからラインと、通信や情報収集の手段が急速に変わりつつある。

そして「地図を読めない男」であった自分も最近では、カーナビゲーションで車を操り、空港などでガイドブックを買わずに、スマホのみで旅先の買い物や飲食を楽しめるようになった。

以前に読んだビジネス書に、衰退する業種は「世の中で不必要となった事業に執着する会社」と「競争に負けた会社」の2種類と定義付けられていた。

とは言え、本棚に並べる地図帳やガイドブックは体裁のいいインテリアであり、書物として味わいがある。そして時代毎、個人毎の行動記録であり、歴史にも繋がっている必要なものと思う。

そう言えば、子供部屋内の定番アイ

テム、地球儀も最近は見なくなりました。

ドライな世の中になってきたことにスマートフォンも寂しさも感じるどころだ。

今後、昭文社はガイドブックを制作するノウハウを生かして、海外旅行をする人に向けて宿泊や観光ツアーを配するサービスなど出版以外の事業を強化して、業績の立て直しを図ると聞く。

是非ともITを凌駕したアナログなサービス業を成功させてもらいたい。

Profile

1958年生まれ。伊藤病院3代目院長。北里大学医学部卒業、東京女子医科大学大学院修了。医師になって以来、国内外にて一貫してバセドウ病、橋本病、甲状腺癌など甲状腺疾患に対する診療と研究にひたすら従事。東京女子医大、筑波大大学院非常勤講師。日本医科大学、了徳寺大学客員教授。日本内分泌外科学会、日本甲状腺外科学会理事。厚生労働省診断群分類調査研究班班長。伊藤病院 <http://www.ito-hospital.jp/> 名古屋甲状腺診療所（名古屋分院） <http://www.kojin-kai.jp/nagoya/> さっぽろ甲状腺診療所（札幌分院） <http://www.kojin-kai.jp/sapporo/>

